



徳島大学

# 歯学部たより

Tokushima University Faculty of Dentistry

第2号 2016.4.1



## 歯学部 創立40周年を 迎えて

歯学部長

河野 文昭

徳島大学歯学部は、昭和51(1976)年に四国で唯一の歯学部として、国立大学としては全国で8番目に設置され、今年で40周年を迎えます。平成19(2007)年からは、歯学科に加え、歯科衛生士と社会福祉士の2つの国家資格が取得可能な口腔保健学科を設置し、歯科医学と福祉とを融合して学ぶことのできる全国でもユニークな歯学部として発展してまいりました。平成27(2015)年には、口腔保健学専攻博士後期課程を設置し、すべての教育課程が揃いました。また、平成27(2015)年9月には、新築した外来棟4階に歯科部門が移転し、医科・歯科連携がさらに加速する環境が整いました。

### CONTENTS

- 1 学部長挨拶
- 2 教育の動向
- 3 病院の動向
- 4 研究の動向
- 5 就職・進学、国試、入試の状況
- 6 各種紹介
- 8 掲示板

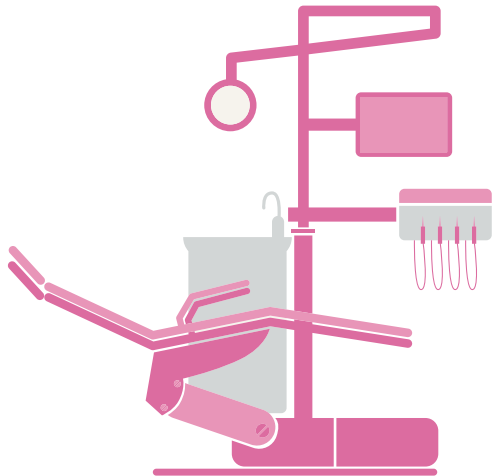
徳島大学歯学部・口腔科学教育部では、徳島大学の理念である自主・自立、進取の気風に基づき、地域性と医学・歯学・薬学・栄養学の教育・研究拠点である蔵本地区に位置する利点を活かして、地域で活躍する人間性豊かでリサーチマインドを持つ歯科医師をはじめとした高度専門職業人の養成と先端的な歯科医学研究を推進し、中国・四国地区の歯科医学・口腔保健、福祉の研究、人材育成の拠点として存在感を示しています。これもひとえに関係各位の並々ならぬご尽力の賜物と深く感謝いたします。

現在、歯学教育の分野では教育の質が問われており、参加型臨床実習の充実と歯学教育の認証評価の実施が課題としてあげられています。本学では、創設時より臨床実習は学生が患者を担当して行う実践型臨床実習と指導歯科医の診察見学・介助を行う見学型臨床実習を併用したハイブリッド型臨床実習を行ってきました。しかし、経験症例数の減少、不足がみられることから、今後は平成24年に導入したシミュレーションロボットやスキルスラボを補完実習として導入することを考えなければなりません。

一方、カリキュラムの充実として、卒業時に身につけておかなければならない能力(コンピテンス)を明確にし、学年毎の到達目標を示したカリキュラム、すなわちアウトカム基盤型カリキュラムへ移行が求められています。築37年の歯学部棟の改修計画を勘案しながら、検討していく予定です。

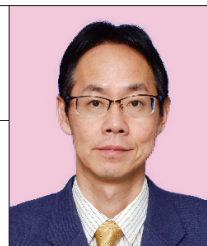
高齢社会を迎えた今、医療、福祉、行政との連携が必要不可欠となっており、医療従事者や福祉関係者のなかで歯科の重要性の認識が深まっています。このことは医療や介護保険の改正等に如実に現れています。そのため、歯学部では、時代のニーズに応じた多職種協働を実践できる感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材、保健、医療・福祉に貢献する専門職業人の育成を教育目標に挙げています。新たな教育、研究の取り組みを今後とも実践し、さらに教育・研究・臨床を充実して行く所存ですので、皆様のご支援、ご協力よろしく申し上げます。

本年、徳島大学歯学部は創立40周年を迎えるにあたり、徳島大学歯学部同窓会蔵歯会の25周年と共催で記念誌の発行、記念講演会、記念式典、祝賀会、基金の設立等の記念事業を11月12日(土)に行う予定です。ご協力よろしく申し上げます。



## 教育の動向

歯学部教務委員長 松香 芳三



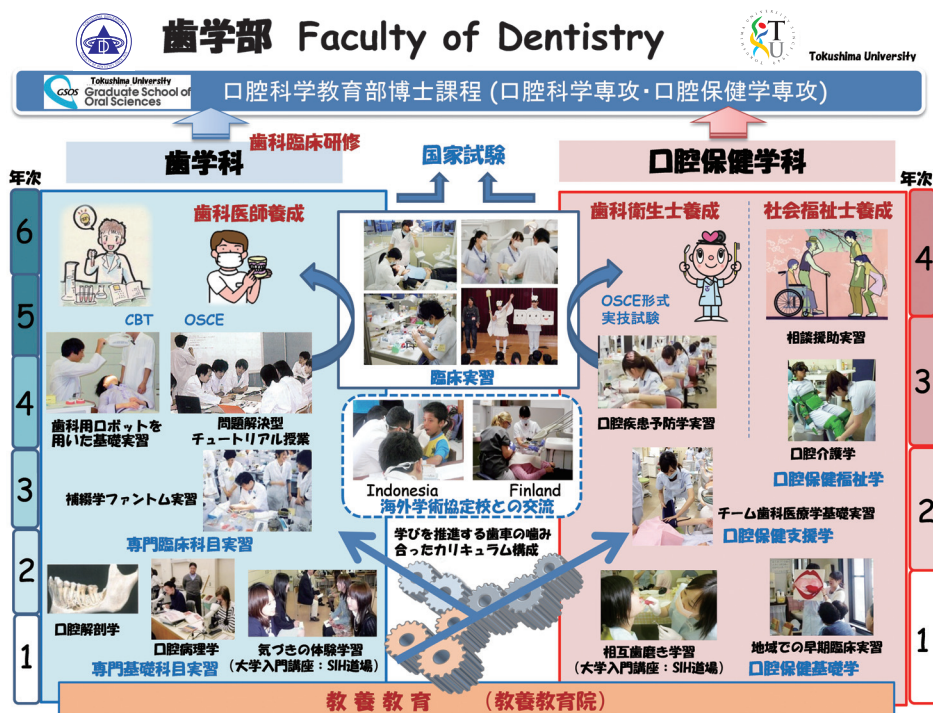
新入生、同窓会員、後援会の皆様、こんにちは、教務委員長を拝命しております顎機能咬合再建学分野（補綴クラウン・ブリッジ）の松香です。皆様におかれましてはお元氣でご活躍されていることと期待しております。また、新入生の皆さんは今後の歯学部の生活に期待を膨らませていることだと思います。今回は徳島大学歯学部で行われております教育の動向を報告致します。

大学の講義と言いますと、アメリカ映画に出てくるように、教授が板書をしながら自分の好きなことを話し、教室への出入りは自由で、私語をしたり、寝たりしている学生もいるという形態を思い浮かべる方も多いと思います。実際に私が学生時代はそのような状況であり、一生懸命に学生時代に勉強していなくても卒業後は何とか社会生活を営むことができた良き時代でした。最近は世の中全体が真面目になったのでしょうか、学生は真面目に勉学に励むことが求められているようです。また、大学の教員は研究だけでなく、教育にも力を入れるようになり、学生の能動的な授業であるアクティブ・ラーニング（課題演習、質疑応答、振り返り、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを取り入れた学生の能動的な学習）が一般的となりました。徳島大学ではアクティブ・ラーニングが特に盛んです。例えば、新入生の皆さんは入学直後の「SIH道場 ～アクティブ・ラーニング入門～」を受講します。これは、文部科学省の「大学教育再生加速プログラム」に採択された取り組みで「Strike while the Iron is Hot（鉄は熱いうちに打て）」として、初年次学生の能動学習と教員の新たな教育手法を推進するものです。従来から歯学部では、大学入門講座において読書レポートや問題解決型授

業に加えて、気づきの体験学習／相互歯磨き学習などの良好なコミュニケーションの習得を目的とした体験学習を実施していました。

図に両学科の卒業までのカリキュラムを示します。1年次は主に教養教育院において教養教育を学びます。歯学科では2年次後期より専門科目が開始されます。その後5年次前期に全国統一の歯学共用試験（コンピュータ試験：CBT および客観的臨床能力試験：OSCE）を受験します。これらの関門をクリアすると、5年次後期から実際に患者さんの診療を行う臨床実習がスタートします。口腔保健学科では共用試験はありませんが、規定の単位と実技試験の合格をもって口腔保健衛生学臨床・臨地実習に臨むことができます。また、社会福祉関連の規定の単位取得をもって相談援助実習を実施することが可能となります。臨床実習は大学病院だけでなく、学外の高齢者施設などでの実習も含まれます。両学科とも最終的に、歯科医師国家試験、歯科衛生士国家試験および社会福祉士国家試験に合格してライセンスを取得することになります。その後は大学院に進学することによりキャリアアップすることになります。

学生の皆さんへのお願いですが、探求心をもって貪欲に学問に挑んでいただきたい。歯科医療や社会福祉に関する膨大な情報量に対し、わずか6年間や4年間で学習する内容は核となる僅かな知識と、どのように有用な情報を選択し、知識・技能を習得していくのかという「学び」です。自ら努力する能動的学習なくして社会から求められる歯科医師、歯科衛生士、社会福祉士にはなれません。皆さんのこれからの活躍を期待しています。



## 病院の動向

前 歯科担当副病院長 松尾 敬志



高齢化社会が来ると言われるようになってから、あれよあれよという間に高齢化率 15% を超え、現実の高齢社会となりました。団塊の世代が後期高齢者になるのはまだ少し先ですが、その頃には人口減少の方が問題になると言われています。

さて、厚労省は高齢化社会の諸問題に対応すべく、今後の医療・介護サービスのあるべき姿の実現に向けてスタートを切りました。それによりますと、地域医療ビジョンとして病院の機能分化、連携、地域特性の明確化が挙げられています。そして、病院の機能分化として、高度急性期、一般急性期、亜急性期、長期療養に分かれます。徳島大学病院は特定機能病院であり、高度急性期の病院としての役割を担うこととなりますが、7対1看護の病院削減に伴い、現在の約 700 床から大幅な削減を迫られそうです。

歯科はこれまで教育研修病院として自らを捉えてきました。しかし、上記のように徳島大学病院自体が高度急性期病院として機能すると、この病院機能に合った役割を要求されると考えられます。すなわち、高度急性期の患者さん

に対応すべく、多職種連携の一員として周術期口腔機能管理などの役割が期待されるものと思われます。

歯科はこれまでも医科の入院患者さんに対し、口腔管理センターを中心に周術期の口腔ケアを行って来ました。周術期口腔管理関連の収入は、平成 25 年は 720 万円程度でしたが、平成 26 年には 1,880 万円、そして平成 27 年には 1,980 万円まで増加しております。周術期の口腔ケアを行うことにより術後の合併症が減少するのは周知のところですが、徳島大学大学病院でも口腔ケアにより、肺がん患者さんの術後肺炎が有意差 ( $P < 0.05$ ) をもって減少し、また術後の在院日数も有意差 ( $P < 0.05$ ) をもって減少していることが示されました。

歯科の役割が臨床実習を中心とする教育であることは論を待たないところですが、社会の情勢やニーズに合わせてその役割を柔軟に適応させ、存在感を示して行くことも重要だと考えます。

### 臨床技術紹介

#### シェーグレン症候群ドライマウス — 難治性疾患から治療可能な疾患へ —

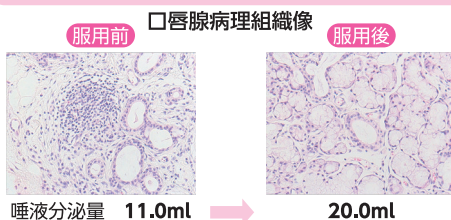
口腔内科科長 (教授) 東 雅之



指定難病である「シェーグレン症候群・口腔乾燥症」に対する根治的治療法は存在しない。我々は、本疾患に対する新規治療法を開発するため、これまで *in vitro* および動物

実験にて研究成果を報告してきた。そして現在臨床研究を行っている。その結果、対象患者 18 名にセファランチン (6mg/日) を 12 ヶ月服用させた後の唾液分泌量を測定したところ、15 名において唾液量の有意な増加がみられた。なお、セファランチン投与効果が認められる患者は、SS-A 抗体価が 64U/ml 以下の場合であることが明らかとなった。以上の結果より、セファランチンは本疾患患者に対してエビデンスに基づいた新規治療法になることが示唆された。

#### シェーグレン症候群患者に対する セファランチンの治療効果 (腺房構造の再構築)



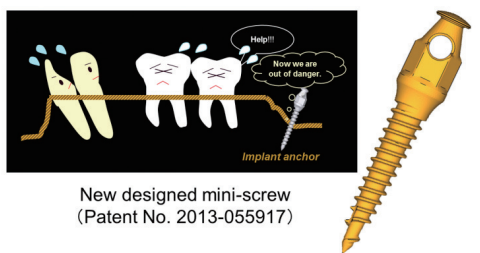
#### 歯科矯正用アンカースクリューを用いた 最新の矯正歯科治療

矯正歯科科長 (教授) 田中 栄二



現代の矯正歯科治療においては、患者の協力を依存せず強固な固定源を獲得できる歯科矯正用アンカースクリューが導入され、広く普及してきている。アンカースクリューの導入により、治療を単純化でき、矯正歯科治療を質の高い治療結果が安定して得られるようになった。アンカースクリューはチタン合金からなり、生体親和性が高く、着脱

も容易で、患者にとって侵襲がきわめて少ない。一方で、治療中に埋入したアンカースクリューが脱落するなどの問題が発生しており、その割合は約 20% にも上る。そこで当科では、緩みにくく、生着率の高い、新規アンカースクリュー (徳島大学モデル) を開発した。骨粗鬆症患者の骨接合ネジの形態を参考に、通常のスクリューと比較して 20-30% 程度緩みにくくなった。現在、倫理審査委員会の承認 (承認番号 2455) を得て、臨床研究を開始している。



## 研究の動向・概要

歯学部副学部長(研究担当) **石丸 直澄**



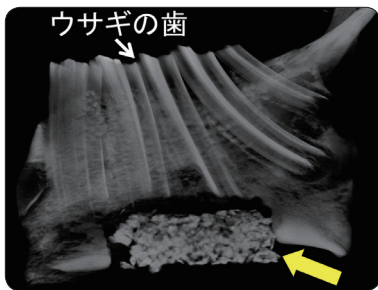
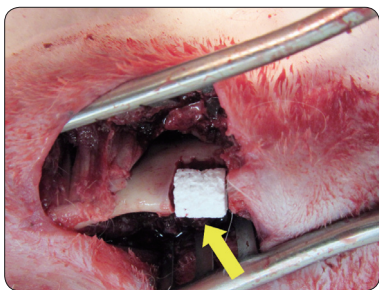
### ～大学院生は大学の宝～

本学部では、基礎分野、臨床分野がそれぞれの強みを生かした研究を推進しています。特に、研究の中心的役割を果たしているのは大学院生であると言えます。研修医制度の導入以来、ひと昔前に比べ本学卒業生の大学院進学率は低くなっていますが、社会人大学院生、臨床歯学コース、口腔保健学専攻設置などの制度改革によって大学院進学を推奨しています。

また、大学院改革として、原則国際誌掲載を博士課程学位取得のルールとし、院生の研究力強化を図っています。歯学部全体の国際研究雑誌の掲載数は近年増加傾向にあります。さらに、歯学科3年生では各分野への研究室配属によって、学部学生時からリサーチマインドの育成に取り組んでいます。教職員、学生が一体となって夢と希望のある優れた研究を目指して日夜励んでいます。

### 骨と置き換わる新しい生体材料：炭酸アパタイト

口腔外科学分野教授 **宮本 洋二**



ウサギの下顎骨に作製した骨欠損に移植した炭酸アパタイト(黄色矢印)。

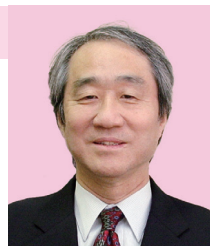
炭酸アパタイト(黄色矢印)を移植したウサギ下顎骨のレントゲン像。

口腔外科では顔面の骨折や口腔がんなどの治療を行っています。これらの治療のために顎の骨を大きく切り取ることもよくあります。その結果、患者さんは食べられなくなったり、顔が変形したりしてしまいます。このような骨欠損の治療には、腰骨などから自分の骨を採取して移植する自家骨移植が一般的です。しかし、自家骨移植では、骨を採取するために健康な部位に新しい傷を作る必要があり、患者さんにとっては

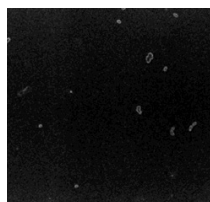
大きな苦痛となります。われわれは、体の中で徐々に溶けて骨と置き換わる新しい生体材料(炭酸アパタイト)の開発、研究を続けています。現在は、厚労省による認可を得るために、実際の患者さんに使用する治験を行っています。また、この炭酸アパタイトを用いた骨の再生医療についても研究中です。口腔外科に興味のある方は、遠慮なく、遊びに来て下さい。

### 撥菌って知っていますか？

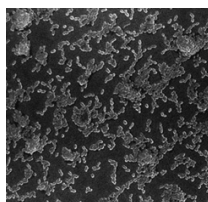
口腔微生物学分野教授 **三宅 洋一郎**



#### ミュータンスレンサ球菌の付着



MPC処理



MPC未処理

口腔微生物学分野の研究は1) 口腔レンサ球菌の病原メカニズム、2) 緑膿菌の抗菌薬抵抗性メカニズム、3) 微生物低付着性(撥菌)素材の開発、を中心に行っています。撥菌素材の1つとして日油(株)との共同研究として2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine (MPC) ポリマーの口腔への応用について進めており、口腔への細菌付着の高い防止効果を示すことができました。既に一部の含嗽剤に添加されており、さらなる応用が期待されています。

### アグレッシブに行動してみませんか。

口腔保健衛生学分野教授 **日野出 大輔**



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。口腔保健衛生学分野では、基礎・臨床・疫学研究や教育手法などに関する様々な研究活動を行っています。たとえば、妊娠期では徳島大学病院スタッフの協力を得た研究から、妊婦の歯周状態が低体重児出産のリスクとして関連することを報告しました。写真に示すように本院での両親学級パンフレットに掲載して効果的な歯科保健指導を行うなど、得られた研究成果を活用しています。大学では新たな知見を見出し、社会へ還元するチャンスがあります。是非、研究活動への参画を求めて研究室に来てください。あなたのアグレッシブな行動が有意義な大学生活を生み出すことと思います。

# 就職・進学、国家試験、入学試験の状況

学生委員長 吉村 弘



本学歯学部歯学科入学試験競争率の動向を見ると、ここ最近は比較的高い競争率を維持していましたが（平均5.2倍）、平成27年度入試では久しぶりに国立大学全国平均を下回っています（3.3倍）。平成27年度入学者の出身県別の比較では、徳島県が最も多く、次いで兵庫県、大阪府などと続き、この傾向はここ数年続いています。入学者に対する女子学生の割合は平成25年以降では平均43.9%で、入学年度により多少の増減がみられます。口腔保健学科の入学試験の動向をみると、歯科衛生士と社会福祉士の2つの免許が取得できることから高い人気を維持しています。入学者の出身県別では例年徳島県が最も高い比率となっています。歯科医師国家試験合格率については、年度により増減があり、平成26年度では全国平均を上回るも国立大学平均を下回りました（71.9%）。歯科衛生士国家試験の合格率は100%を維持しており、社会福祉士国家試験合格率については平成24年度以降、全国1位、1位、2位と好成績を収めています。歯学科卒業生の卒業後研修先については、例年徳島大学病院が最も多く、次いで他大学医学部付属病院、歯学部を有する他の大学病院、総合病院などとなっています。口腔保健学科の卒業生の就職先は、市役所など公的機関、大学病院、総合病院、歯科診療所など多岐にわたっています。本学歯学科卒業生のうち9名が平成27年度大学院博士課程に進学し、本学口腔保健学科卒業生のうち前期博士課程に5名、後期博士課程に2名が進学しました。

## 学生数 (5月1日現在)

### 歯学部歯学科 (定員 40名)

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計
25年度	(24) 43	(26) 41	(18) 48	(12) 36	(22) 49	(12) 36	(114) 253
26年度	(14) 44	(21) 37	(28) 46	(19) 48	(14) 38	(19) 48	(115) 261
27年度	(19) 43	(12) 38	(21) 43	(28) 46	(21) 51	(13) 37	(114) 258

※( )内の数は、女子学生を示し内数である。

### 歯学部口腔保健学科 (定員 15名)

	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
25年度	(15) 15	(16) 16	(13) 15	(12) 12	(56) 58
26年度	(15) 16	(14) 14	(15) 15	(13) 15	(57) 60
27年度	(15) 15	(15) 16	(14) 14	(15) 15	(59) 60

※( )内の数は、女子学生を示し内数である。

## 入学試験 実施状況

### 歯学部歯学科 (編入学を除く)

学 科	募集人員	前 期		後 期		推 薦		帰国子女		合 計	
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
25年度	40	173	18	158	11	28	10	1	1	360	40
26年度	40	120	20	197	10	26	10	0	0	343	40
27年度	40	109	24	63	10	10	6	2	0	184	40

### 歯学部口腔保健学科

学 科	募集人員	前 期		後 期		推 薦		合 計	
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
25年度	15	36	6	32	4	17	5	85	15
26年度	15	35	5	79	4	32	6	146	15
27年度	15	19	5	35	5	14	5	68	15

## 国家試験 合格状況

	歯 科 医 師			歯 科 衛 生 士			社 会 福 祉 士		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
24年度	61	51	83.61	16	16	100	17	16	94.12
25年度	39	23	58.97	12	12	100	12	12	100
26年度	57	41	71.93	15	15	100	16	14	87.5

## 就職状況

	歯 学 科			口 腔 保 健 学 科		
	就職希望者数	就職者数	就職率	就職希望者数	就職者数	就職率
24年度	41	41	100	14	14	100
25年度	19	19	100	10	10	100
26年度	33	33	100	13	13	100

## 各種紹介

### 役員等紹介

#### ◆ 歯学科 クラス担当教員

1年次生	馬場 麻人	教授
	宮本 洋二	教授
2年次生	岩本 勉	教授
	濱田 賢一	教授
3年次生	河野 文昭	教授
	三宅 洋一郎	教授
4年次生	伊藤 博夫	教授
	松香 芳三	教授
5年次生	石丸 直澄	教授
	北畑 洋	教授
6年次生	東 雅之	教授
	吉村 弘	教授

(アイウエオ順)

#### ◆ 平成28年度 歯学部執行部、同窓会役員等紹介

役職等名	氏名	所属等
歯学部長	河野 文昭	総合歯科学分野
副病院長 (歯科診療担当)	北畑 洋	歯科麻酔学分野
歯学科長・副学部長	野間 隆文	分子医化学分野
口腔保健学科長・副学部長	白山 靖彦	地域医療福祉学分野
副学部長 (研究担当)	石丸 直澄	口腔分子病態学分野
入学試験委員長	濱田 賢一	生体材料工学分野
教務委員長	松香 芳三	顎機能咬合再建学分野
学生委員長	吉村 弘	口腔分子生理学分野
同窓会会長	薦田 淳司	(5期)
同窓会副会長	小寺 尚和	(1期)
	中西 正	(7期)
	柴田 享	(7期)
同窓会専務理事	山口 貴功	(10期)



#### ◆ 口腔保健学科 クラス担当教員

1年次生	日野出 大輔	教授
	土井 登紀子	助教
2年次生	伊賀 弘起	教授
	渡辺 朱里	助教
3年次生	尾崎 和美	教授
	中江 弘美	助教
4年次生	松山 美和	教授
	吉田 賀弥	講師

### 教員人事異動

※講師以上。病院歯科を含むが、昇任を伴わない研究部・病院間の異動は除く。

#### ◆ 昇任 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

※日時	※分野等	※職名	※氏名	
平成27年4月1日	分子医化学	准教授	三好 圭子	研究部歯学系
平成27年4月1日	口腔組織学	准教授	岡村 裕彦	研究部歯学系

#### ◆ 転入 (平成27年4月1日～平成28年4月1日)

平成27年10月1日	口腔顎顔面形態学	教授	馬場 麻人	研究部歯学系
------------	----------	----	-------	--------

#### ◆ 転出 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

平成27年5月31日	歯科 (第二保存科)	講師	大石 慶二	病院
平成27年7月18日	口腔顎顔面矯正学	准教授	黒田 晋吾	研究部歯学系
平成27年9月10日	地域医療福祉学	特任教授	中野 雅徳	研究部歯学系
平成27年9月23日	口腔科学フロンティア推進室	准教授	岩崎 裕一	研究部歯学系
平成28年3月31日	口腔組織学	教授	羽地 達次	研究部歯学系

## 退任の挨拶

平成 28 年 3 月 31 日付で徳島大学を定年退職致しました。私は平成 11 年に徳島大学歯学部に着任し、口腔解剖学第二講座を主宰してきました。大学院の部局化に伴い、分野名は口腔組織学に変更されましたが、一貫として、歯の解剖学、組織学、口腔組織学の教育に携わってきました。紆余曲折はありましたが、大過なく 17 年間の徳島大学生活を全うすることができました。

何処の大学でもそうですが、歯学部では外部から赴任された先生はほとんどが教授ひとりで研究室に入ってきます。ある先生はそのことを「落下傘部隊」と称していました。私は前任地から 3 名の大学院生と共に徳島にきました。そのことを「ノルマンジー上陸」と称していました。その後も大学院生や研究生が途切れなく入局し、研究を継続することができました。私と一緒に研究してきた院生は大学院修了後



のことを「ノルマンジー上陸」と称していました。その後も大学院生や研究生が途切れなく入局し、研究を継続することができました。私と一緒に研究してきた院生は大学院修了後

## 口腔組織学分野 教授 羽地 達次



も各界で大活躍しています。指導者としては喜びに堪えません。

赴任の翌年から淡路島の新入生合宿に参加しました。学部長をはじめとする先生方が学生目線で新入生や上級生に接していたことが印象的でした。あえて名前を挙げると、計画・実行を一手に引き受けてきた北村先生、飯盒炊爨で実力を発揮した松尾先生の働きは特記すべきことです。当時は大らかな時代で、未成年であろう学生もアルコールを摂取していました。誰もそれを咎める者はいませんでした。何年か前から淡路島合宿ではアルコール禁止になり、現在は淡路島合宿そのものがなくなったことは当時を知る者として寂しさを感じます。

徳島大学歯学部の学生は素直で礼儀正しく勤勉です。講義・実習を通して実感してきました。学部創設時の先生方や先輩方が築いた良き伝統と思います。現今の歯科医師国家試験の合格率低下は憂うべきことですが、学部が一丸となり、教育に力を注げば優秀な教員と学生の事です、きっと改善されます。これからも遠くから徳島大学歯学部の発展を見守って行きたいと思います。

## 新任の挨拶

## 口腔顎顔面形態学分野 教授 馬場 麻人

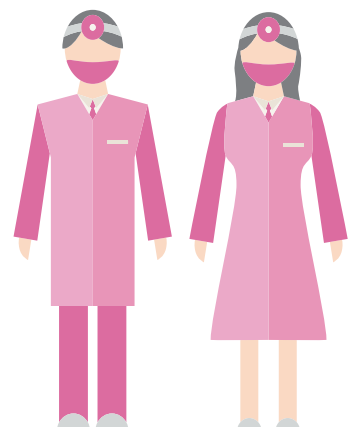


平成 27 年 10 月 1 日付で北村清一郎教授の後任として着任致しました。珍しい名前だと感じられるでしょうが、ドイツ語教員で森鷗外のファンであった父親が、鷗外の息子、森於菟（おと；くさかんむりの下は“兔”ですがネット資料等では“兔”が提示されています）より“読み”をとり、同じ漢字は当時の命名ルールでは使えなかったので別の字を充てた次第です。またローマ字表記も、ドイツ人のように“Otto BABA”とすることを、父親に勧められ、確かにアルファベット 2 字ずつは据わりが良いと思って拘ってきました。ただ、このように綴ると、初めてメールでやり取りした外国人には、日本に留学しているアラブ系ドイツ人のように勘違いされ、笑い話になることもありました。

さて森於菟先生ですが、分担解剖学（金原出版）の執筆者でもある高名な解剖学者であります。一方、私自身は、歯学部へは歯科医になってお金を稼ぎ、優雅に暮らすことを目標に入学しましたが、[この名前の持っている引力なのか、魔力なのか] 第 4 学年の頃には、解剖の研究室で多くの時間を過ごすようになり、東京医科歯科大学歯学部を平成元年に卒業後、口腔解剖学第二講座（一條 尚教授

主催）に大学院生として入学してしまいました。そして当初の目標からは少々外れて、解剖学教員となり現在に至っている次第です [でも楽しい]。

ご存知のように当分野は肉眼解剖学教育を担当しています。また、前任の北村先生の在職中の献身的な御努力のお陰で、本学歯学部には「人体解剖と骨のミュージアム」を始めとして、素晴らしい標本が多数保存されております。このような日本屈指の標本の数々と共に教育・研究を行うことが出来ることは、私にとって非常に楽しく幸せなことであり、この幸福を皆さんに還元しつつ頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いたします。



徳島大学歯学部  
創立40周年  
歯学部同窓会  
創立25周年

記念事業

- 1 記念講演会** 日時／平成28年11月12日(土) 13:00 (予定) 場所／ホテル クレメント徳島  
講師／東京大学高齢社会総合研究機構 飯島 勝矢 先生
- 2 記念式典** 日時／平成28年11月12日(土) 14:30 (予定) 場所／ホテル クレメント徳島
- 3 祝賀会** 日時／平成28年11月12日(土) 16:00 (予定) 場所／ホテル クレメント徳島

11月12日(土)10:00～12:00に歯学部でホームカミングデイを開催いたします。  
卒業生の皆様を母校にお迎えし、旧交を温めていただくとともに、現在の徳島大学歯学部を皆様に広く知っていただく機会ですので、多数のご参加をお待ちしております。詳細が決まりましたら、別途、ご連絡を差し上げます。

徳島大学歯学部  
教育研究基金へ  
ご協力をお願い



徳島大学歯学部は、2016年に創立40周年を迎えます。その歴史の中で、新設ながら教授14名を含む多くの研究・教育者を生み出すとともに、地域医療に貢献する多彩な医療人を育ててきました。

一方、大学を取り巻く状況は年々厳しくなっており、高い志を持つ学生や研究者に対して支援できる環境もなくなりつつあります。しかし、このような状況にあっても、徳島大学歯学部に与えられたミッションを進め、本学の人材育成が疎かになってはなりません。そのためには是非とも皆様方のご厚志をもって安定した独自財政基盤の充実が必要であり、「徳島大学歯学部教育研究基金」を創設し、皆様にご協力をお願いする次第であります。本学の発展のために、そして本学の人材育成を充実させるために、この趣旨にご賛同いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寄付をいただいた方には、この歯学部便りにご芳名を掲示させていただき、特に6口(一口5,000円)以上の方には感謝状を、20口以上の方には大学校舎内に掲示させていただきます。

詳しい概要は徳島大学歯学部ホームページをご覧ください。その他寄付についてのご不明な点、ご相談がある場合には、歯学部総務係あるいはお知り合いの教職員に遠慮なくお問い合わせください。

寄付のご案内  
徳島大学歯学部教育研究基金

寄付

寄付者名	金額
木下 貴雄	50,000
井上 秀夫	1,000,000

寄付者名	金額
桃原 光平	30,000
藤井 佐都樹	500,000

(平成27年4月1日～平成28年3月10日)

受賞一覧

日時	受賞名	受賞者
平成27年6月	2015年度日本歯科保存学会・学会奨励賞	板東 美香
平成27年6月	第25回日本顎変形症学会総会 優秀ポスター賞	七條 なつ子
平成27年9月	第7回日本シェーグレン症候群学会賞	石丸 直澄
平成27年9月	先端歯学スクール2015 優秀発表賞	近藤 智之
平成27年10月	第31回「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い」 優秀発表賞	梶本 昇
平成27年11月	第62回日本病理学会秋季特別総会ポスター発表賞	鯨岡 聡子
平成27年11月	日本口腔組織培養学会学術奨励賞	可児 耕一
平成27年11月	第74回日本矯正歯科学会学術大会 優秀発表賞	佐藤 南
平成27年11月	第74回日本矯正歯科学会学術大会 優秀発表賞	森 浩喜
平成27年11月	第74回日本矯正歯科学会学術大会 English Presentation Award	KARIMA QURNIA MANSJUR
平成27年12月	日本接着歯学会学術大会発表優秀賞	梶本 昇
平成28年1月	日本義歯学会第8回学術大会優秀口演賞	後藤 崇晴
平成28年1月	平成27年度康楽賞	中西 正
平成28年1月	平成27年度康楽賞	工藤 保誠
平成28年1月	平成27年度康楽賞	近藤 智之
平成28年1月	平成27年度康楽賞	田村 友香
平成28年1月	平成27年度康楽賞	檜垣 宜明
平成28年1月	平成27年度康楽賞	谷口 真結子